

教員・学内他部署との連携・協働

東北学院大学学術情報リポジトリ 事例報告



2015年11月11日（水）
第17回図書館総合展 機関リポジトリ推進委員会フォーラム
機関リポジトリの近未来：オープンアクセスからオープンサイエンスへ
第3部 機関リポジトリの今、近未来のために

東北学院大学 図書部図書情報課（中央図書館） 佐藤 恵

リポジトリを構築したばかりの大学の事例として
身近なところからできるちいさな工夫をご紹介できれば！



東北学院大学

- キリスト教福音主義に基づく教養教育型大学
- 学部構成：文・経済・経営・法・工・教養
- キャンパス：3（土樋・泉・多賀城）
- 在籍者数（2015年5月1日現在）：

学部生11,654名（うち大学院生104名）

専任教員数 300名 専任職員数 171名

東北学院大学学術情報リポジトリ

- リポジトリシステム：WEKO（JAIRO Cloud）
- 2014年4月公開
- 登録コンテンツ数：352
- 担当職員：2名

（図書受入、会計、庶務、雑誌、企画と兼務）



2 | リポジトリ構築の経緯：運営体制の特徴

2009年 : 図書館内における提案

2011年10月 : 大学へ提案（図書館長→学長）

2013年 7月 : JAIRO Cloud利用申請

2013年10月 : 学術情報リポジトリ運営委員会設置

＜委員長＞ 学務担当副学長

＜副委員長＞ 図書館長

＜委員＞

- ・ 各学部長
- ・ 各研究科長
- ・ 学務部長
- ・ 情報システム部長

- ・ 学術研究会編集委員長
- ・ 工学会論文集編集委員長
- ・ 図書情報課長
- ・ その他委員長が必要と認めた者

コンテンツの収集・発信：全学規模の取組



委員長は学務担当副学長に
「図書館リポジトリ」ではなく
「大学リポジトリ」を目指して

3 | 本学が目指す「リポジトリ」とは

■単なる入れ物ではない、自学「ならでは」のリポジトリを

「ならでは」を分析してみる

ならでは事例1：地域に育まれた大学として

- ・東北最大規模の私立総合大学（入学者のうち97%が東北出身者）

ならでは事例2：東日本大震災 被災地の大学として

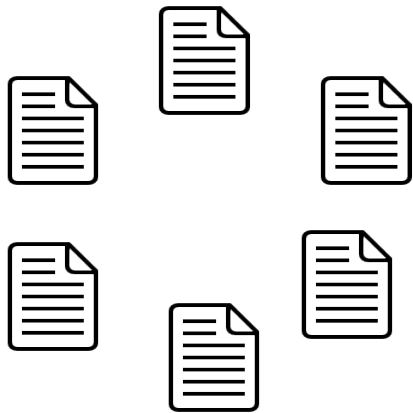
- ・特筆すべき震災関連研究活動の発信
- ・総合大学ならではの文理双方からの視点による、地方公共団体へ提言
- ・研究者・学生の地域貢献活動の発信

3 | 本学が目指す「リポジトリ」とは

大学

【特色のある研究成果】

震災関連各種シンポジウム資料
地元自治体への提言
文化財レスキュー
被災地域民俗の聞き書きetc…



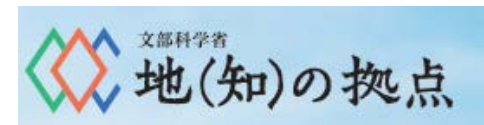
学内に点在

つなげる

地域と学生・教職員を繋ぐ
「知」のハブ的役割
大学の研究成果発信活動における
様々な場面で、リポジトリもセットに

あつめて

地域



「知」の還元による地域
振興・復興サポート

総合大学ならではの文理双方からの視点による地域に根差した研究を発信



Information

2014年03月10日 テスト運用を開始します

Contents

[トップ](#) [ランキング](#)

language

日本語

キーワード検索

語

検索

☐ 簡易検索 ☒ 全文検索

インデックスツリー

★ 紀要論文

東北学院法学 [0件]

東北学院大学工学部研究報告 [0件]

東北学院大学教養学部論集 [0件]

2014年4月 公開！

News

最新 5日分

表示すべき新着情報はありません。

Menu

[トップページ](#)

- ▶ リポジトリ概要
- ▶ 運用規程
- ▶ コンテンツ登録について

Link

検索

■ 本学関連リンク

[東北学院大学](#)

[東北学院大学図書館](#)

[東北学院大学教育・研究業績【※PDF】](#)

[東北学院大学 産学連携推進センター「シーズ集」](#)

[本学刊行紀要・論集関係目次検索【※本文リンクはありません】](#)

■ 論文を検索する

[CiNii Articles - 日本の論文をさがす - 国立情報学研究所](#)

[JAIRO \(学術機関リポジトリポータル\)](#)

[Registry of Open Access](#)

[Repositories\(ROAR\)](#)

■ 文献情報を調べる

[NII 学術研究データベース・リポジトリ](#)

■ 入れ物はできた。さて、どうする？【対事務部門編】

☆ 協力してくれる人さがし

⇒キーマンは誰？ 部署はどこ？

☆ 学内での認知度向上

⇒教員も大事。でも…

研究支援の側面にいる事務系のひとたちにも、意義を
理解してもらうことは必要なはず！

⇒さまざまな場面で協力してもらえる、かも（期待）

5 | リポジトリ広報における事務部門との連携

■ 協力してくれる人さがし

図書館 ⇒ 教務課（教授会、FD主管部署）

- ・ **新任教員FD研修会でリポジトリ広報（初回：2014.4）**

⇒「今年の研修会でもやるでしょ？」と先方から打診をもらえるように

- ・ **各学部教授会を行脚してリポジトリ広報**

⇒リポジトリ担当外の職員にも協力してもらう

⇒先生方には快く受け入れられたが、後日「事務職員が教授会で話すのは前代未聞」（!）と聞かされる ⇒ 「し、知らなかった・・・」

- ・ **学内のFDニュースにリポジトリ広告掲載（今年度中を予定）**

教務課職員にもリポジトリを知ってもらう → 博士論文の登録の際のやりとりもスムーズに

5 | リポジトリ広報における事務部門との連携

■ 協力してくれる人さがし

図書館 ⇒ 広報課

東北学院大学中央図書館スタッフが考案した「図書館体操第一」に、NHKの取材が入りました

2013年02月13日

皆さんは、「図書館体操」というのをご存知でしょうか。

図書館体操とは、みちのく図書館員連合（略称：MULU：ムル）の庄子隆弘（東北学院大学中央図書館スタッフ）さんが考案した、図書館員のための体操です。図書館員の日常業務を体操にすると共に、2011年3月11日に発生した東日本大震災で大きな被害を受けた東北の図書館員として、記憶が風化しないように、また防災意識を体操を繰り返すことで持ち続けるという思いを込めて考案されたものです。

2月9日、東京NHKのディレクターがこの図書館体操の取材に土樋キャンパスの中央図書館を訪れました。考案者の庄子さんとスタッフ3名で、実際に図書館体操をしている様子を撮影、4名のインタビューも収録していただきました。

現在のところ放送日は未定ですが、東京から全国ネットで放映される予定だそうです。放送日が決定しましたら、またお知らせいたします。

普段からこまめに図書館トピック（やわらかめ）を提供し、広報担当者とのつながりを作る



5 | リポジトリ広報における事務部門との連携



公開と同時に大学webサイトトップページの一等地にバナー設置
「リポジトリ」ということばをまず目にしてもらってから、学内広報へ

■協力してくれる人さがし
失敗が生んだ「人がつなぐリポジトリ」

最大のコンテンツと
なるはずが...

学内論集の一括許諾⇒ 実現せず



相談にのってくださった先生方、担当部署との新たなつながり



学内論集で失敗した一括許諾を、研究所紀要で実現（一部研究所除く）

⇒リポジトリ公開時の学内論集編集委員長の助言と研究所紀要担当部署
（＝学内論集担当部署）の協力による

■ 入れ物はできた。さて、どうする？【対教員編】

「それを作れば、彼らはやってくる」というせりふは
今のところIRには当てはまらない

「より多くのコンテンツを機関リポジトリに集めるために教員を理解する」 D-lib-Magazine 11(1) 2005.1
(DRF地域ワークショップ（環日本海）（金沢大学, 平成22年2月17日～18日）小樽商科大学 「機関リポジトリは図書館活動の中に」 鈴木雅子氏の発表スライドより）

☆ リポジトリ担当者がカウンターで教員と接触する機会はゼロ

⇒ サービス系は業務委託

☆ 他大学ではどうしてる？

⇒ きめ細やかな広報はとても手が回らない…

■ 担当者がカウンターで教員と接触する機会はゼロ

- ・ 教員と協働する業務（入試、行事、会議等）を狙って登録勧誘 ⇒ 後日さらに詳しい話を聞きに

たとえば
こんな話が



リポジトリって学内論集紀要に載った論文しか登録できないの
だよね？（初期コンテンツ収集で論集に力を入れ過ぎた結果生じた誤解）

既にオープンアクセスになってるものの登録は避けたいなあ・・
（検索エンジンで同一コンテンツが複数ヒットするのはイヤ）



本当に届けたい層に研究成果を届けるためには、論文より
他の方法（展示発表やDB構築、学校教育現場向け教材開発etc.）
のほうがフィットする場合もあるよ

■ 対話から生まれるリポジトリの新たな展開

例) 東日本大震災に係る文化財レスキュー活動とリポジトリの連携
(文学部歴史学科・東北学院大学博物館)

宮城県女川地区で被災した博物館収蔵品や
生活用具などの文化財を救出

修復・保全

修復資料の展示会（津波被災地）
⇒地域の方々への用具の使い方、思い出
について聞き書き、ワークショップ

地域の記憶の消失を防ぎ、共有する



【文化財レスキューに関わる先生からのお話】

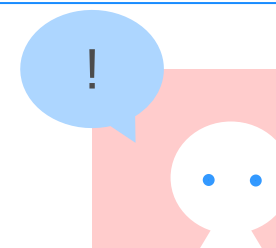
「成果発表の形は必ずしも論文とは限らない。展示発表も成果発信のひとつ」
「フィールドワークで集めたデータや展示記録のポータルサイトを作っている」



「「研究活動をアーカイブする」活動も必要」



「リポジトリを「活動をアーカイブする」場所として使えないだろうか？」

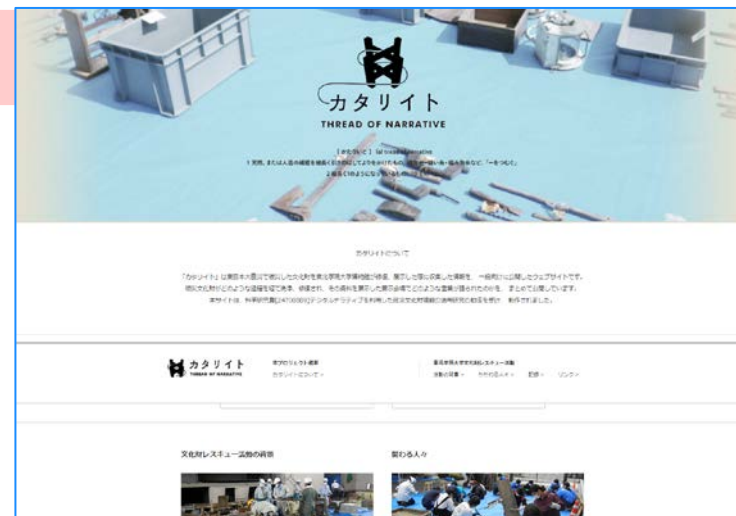


ポータルサイト「カタリト」

宮城県女川地区における文化財レスキューにかかる
作業記録・カルテ・展示・研究成果等を集約する
ポータルサイト

科研費若手研究(B)「デジタルナラティブを利用した被災文化財情報の活用研究」
(代表：奥本素子 研究課題番号：24700889)

【関連研究】科研費基盤研究(C)「ポスト文化財レスキュー期の博物館空白を埋める
移動博物館の実践研究」(代表：加藤幸治 研究課題番号：15K01148)



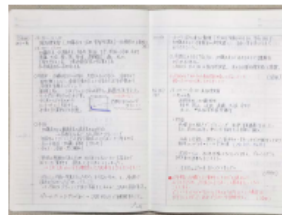
非公開データ

内部利用情報：カルテ、作業日誌、聞き書きシート



受け入れ時の破損状況や構成素材などを記載したカルテ。汚損・破損状態に応じた処置方法と処置経過も記録している。受け入れ時には、資料名称などを付与する時間的余裕と根拠資料がなかったため、番号で管理。

また、番号は1点ごとではなく、受け入れ単位のため、複数資料に1つの番号が付与されている場合もある。



日々の活動を記録した日誌。洗浄作業をおこなった資料のカルテ番号リストや、活動に関わった担当者名、各地から応援にきたボランティアの情報が記されている。

洗浄方法のコツや展示計画など、レスキュー活動の現場を再現できる詳細な記録である。その分、広く公開・利用するためには配慮や対応が必要な記載も多いため内部利用に留めている。

公開データ

外部公開情報：展示・イベントデータ、論文・発表資料



展示会・イベントデータは東北学院大学学術リポジトリに収録されている。ポスターやチラシはもちろんのこと、展示会場で掲示したパネルデータも収録している。
また、論文や発表資料は大学や新聞社などの各種リポジトリ、データベースへの保存を前提としている。

データ保存・公開場所として
リポジトリを活用

■他大学ではどうしてる？

DRFの事例集を参考に「その論文、ください！」



メディアに取り上げられた先生の研究がとても興味深かった、ので…

「先生！その論文、リポジトリに登録してみませんか？」

Language
日本語

インデックスツリー
学位論文
学内論文
研究所紀要
雑誌掲載論文
学会発表・講演等
各種研究関連データ
その他
リポジトリ説明会資料

検索結果

チェックしたアイテムをExport 実行

新着情報

仙台平野に襲来した過去3回の大津波による堆積物の分布と津波遡上距離について
松本 秀明, 熊谷 真樹, 吉田 真空
東北大学による東日本大震災3ヶ月後緊急報告会 (2011/06/10 セッション1「津波による被災の実態とメカニズム」)
pdf

仙台平野に襲来した三回の巨大津波--地層から復元された津波の規模と津波遡上距離について
松本 秀明
東北学 [第2期], (28), 114-126 (2011)
pdf

海岸平野にみられる近現代と完新世後期の海水準変動
松本 秀明, 地理学評論 Ser. A, 57(10), 720-738 (1984)
pdf

仙台平野の沖積層と後氷期における海岸線の変化
松本 秀明, 地理学評論, 54(2), 72-85 (1981)

研究成果のインターネット公開のご紹介：NHK総合「プラタモリ」（仙台編その1）『伊達政宗は「地形マニア」!?』（7月11日放送）で取り上げられた本学教員の地形学研究

去る7月11日（土）に放送されたNHK総合「プラタモリ」仙台編その1『伊達政宗は「地形マニア」!?』にて、本学教養学部地域構想学科 松本秀明教授（本学県キャンパス図書館分館長）の地形学の研究が取り上げられました。

NHK総合 人気番組『プラタモリ』仙台編その1・2 いよいよ放送

伊達政宗による仙台南のまちづくりにおいて、城下町が平野ではなく、わざわざ用水の確保が困難な台地に築かれたのはなぜか。この謎を解き明かす鍵となったのが松本教授と研究室の学生による仙台平野の地質の研究で、仙台南に弥生時代と平安初期の貞観時代に東日本大震災の原因の1つとなった大津波とほぼ同規模（遡上距離は3.3km～4.1km）の津波が来襲していたことや、高頻度で大規模洪水が発生していたことが原因のひとつ、という興味深い結果が明らかとなりました。

本学では、番組で取り上げられた松本教授による当該研究の成果について「東北学院大学学術情報リポジトリ」にて公開しております。

平野に襲来した過去3回の大津波による堆積物の分布と津波遡上距離について」
「東北大学による東日本大震災3ヶ月後緊急報告会(2011/06/10 仙台南センター) セッション1「津波による被災メカニズム」発表資料

関連論文についても公開しておりますので、地域に根差した研究の一端をぜひご覧ください。
論文はこちら

■東北学院大学 学術情報リポジトリ(本学の各種研究成果を公開しています)

登録

大学HPで
紹介

■ やってみてわかった

登録数が増えない理由

担当者の考える理由、先生が考える理由 ⇒ 必ずしも一致しない

担当者が教員の研究プロセスを知ることによって新たな提案が可能になる予感！

必要性は、必ず理解される

リポジトリ、オープンアクセスの意義について、反対意見はない。

なぜならト正論であるから

が、しかし。

Web公開は怖い、登録が面倒

← このハードルをいかに下げるか！

これからどうする？

- ・ **マインドの継承** ⇒ 同じ熱量を持った人材の育成
- ・ **システマティックな収集フローの確立** ⇒ **最少のコストで、最大の効果を！**
- ・ **兼務業務の効率化** ⇒ リポジトリ業務へ注力できる時間の確保
- ・ **職員の研究・発表成果の公開**
⇒ 職員が学会や研究会で発表する機会の増加（職員の成果も大学の成果）
- ・ **大学の「ミッション」の理解、自学の「強み」の分析と発信**
⇒ より経営に近い部署の認知度向上（Institutional Research etc...）
⇒ 「研究成果発信ツール」 + 「**大学広報ツール**」へ

ご静聴ありがとうございました